

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 東岡山工業 高等学校
実践場面	合同進路説明会（&ポスターセッション）
実践日時（時期）	令和6年11月1日（金）1・2限
対象生徒（学年）	全科2年生（ポスターセッションは3年生）
連携の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 包括連携協定（岡山商工会議所、備前商工会議所） <input type="checkbox"/> その他（ ）
学びの分類	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最先端の技術・設備の見学 <input checked="" type="checkbox"/> その他

実践の内容

【背景】

- ・生徒たちにとって、早い段階から自分の進路を考える機会が必要で、実際の企業や大学等の方々から話を聞きながら進路選択の参考とすることは大切である。
- ・そのような機会を生徒に提供する場として、校内での進路説明会を各校では実施しており、東岡山工業高校でも、毎年2年生を対象に実施していた。
- ・進路説明会への参加企業は、過去に生徒が就職した企業など、学校の進路課と繋がりがある企業が中心であるが、生徒の幅広い進路選択のためには、新たな企業の参加も必要と考えた。

【実践内容】

- ・これまでに学校と繋がりのない新たな企業の参加を募るため、岡山商工会議所及び備前商工会議所へ、それぞれの会員企業から進路説明会への参加を依頼した。
- ・岡山商工会議所会員企業で9社、備前商工会議所会員企業で6社の参加をいただき、これに、学校独自の繋がりのある企業5社を加えた20社の企業ブースと4校の大学・専門学校のブースを準備した。
- ・上記の24ブースに加えて、「工業高校の教員」にも興味を持ってもらうため、岡山県高等学校工業教育協会の協力を得て、他の工業高校から教員2名が参加し、企業同様にブースを構え、訪れた生徒に工業高校教員の仕事の魅力等について説明した。
- ・1限目は電子機械科・工業化学科・設備システム科、2限目は機械科・電気科の2年生が各企業のブースを訪れ、説明を聞くほか、希望する保護者も参加し、生徒と同様に企業の説明を聞いた。
- ・同日、同じ体育館内では3年生の課題研究中間発表（ポスターセッション）も開催し、2年生にとっては企業等の説明を聞くとともに、来年度に向けて課題研究の説明を聞くこともでき、また、進路説明会に参加した企業の方にも説明の合間等でポスターセッションも見ていただいた。



実践による効果等

- ・生徒は各企業の担当者と直接話をする中で、様々な企業の業務内容や福利厚生等について聞くだけでなく、その方の職業観など会社案内だけでは得られない生きた情報を得ることができた。
- ・参加企業を商工会議所に相談することで、これまで学校と繋がりのなかった新たな企業との繋がりを作ることができ、生徒の進路選択の幅を広げることができた。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）